群教セ	G14 - 02
	平17.228集

広がりのある学びを生み出す総合的な学習の時間の指導

－追究が深まる活動を取り入れて－

特別研修員　　小山　浩司（館林市立多々良中学校）

《研究の概要》

本研究は、追究の各段階に追究が深まる活動を取り入れることで、生徒が主体的に広がりのある学びを行っていけるようになることを目指したものである。具体的には、ウェビングにより、追究への意欲を高めるとともに見通しがもてるようにし、共通の視点で振り返りながら追究し、その視点をもとにパネルディスカッションで検討することで、そのテーマのもつ多面性や多様性に自ら気付き、深く追究する姿勢を生むことができると考えたのである。

キーワード［総合的な学習の時間－中　ウェビング　パネルディスカッション　共通の視点］

Ⅰ　主題設定の理由

21世紀を生きるうえで、自分の目で状況をとらえ、考え、行動することができる力、何が課題であるかを見抜くことのできる力が大切である。この力をもった人間を育てるための手だての一つとして総合的な学習の時間（以降、総合的な学習）が構想された。この時間は、自分なりに問題をとらえ、実際に調べ、自分なりに解決をして、まとめていくなど、問題解決的な学習の手法を生かしたテーマ学習の時間としてとらえることができ、生徒たちは、課題を見つけ、情報の収集を図り、結論を導き、まとめるという一連の流れを通して「学び方」をも学んでいく。さらに主体的に対象にかかわり問題解決を進めながら、人々の様々な考えや現実社会の問題に触れ、生活者として自己の生き方を考えられるようになっていくのである。

本学年の生徒は、１年時の総合的な学習において「地域」をテーマにした学習をしてきた。身近な対象と直接かかわる単元である分、問題を自分のものとしやすく、追究の初期の段階は主体的・意欲的に活動に取り組めたが深める段階においては、対象を多面的に見たり、発想を広げたりすることが十分とはいえず、活動の深まりや意欲の継続が弱く、やや尻すぼみな学習となってしまった。また、生徒自身も調べたことの内容を表面的に理解する程度で、それに関連することまで広げて調べようとしたり、さらに深く調べてみようという態度を生み出すことはできなかった。その原因としては、追究の各過程でその広がりや深まりにつながる支援が十分でなかったことが考えられる。追究の広がりを生み出すためには、追究への見通しをもつことや、何を追究するのかという視点をもつことが大切である。また、追究したことの意味づけや関連づけを意識することで学びが深まっていくものと考える。これまでは、その部分での支援に弱さがあったため生徒が自信をもって取り組むことができなかったと思われる。

そこで、追究が深まる次のような一連の活動を取り入れ支援をすることを考えた。

まず、テーマ設定段階では、追究が深まる活動としてグループウェビングを中核に据えた活動を行うことで、テーマの内容に関する調査項目の関連性をイメージすることができ、課題意識が活性化するとともに、意欲をもって追究に取り組めるようになる。

次に、テーマ追究の段階で、追究が深まる活動として、毎時間の追究活動の最後に共通の視点に基づく振り返りを行うことで、生徒は自己の追究の足りない面やさらに調べるべき面に気付き、主体的に掘り下げることができるようになる。

さらに、テーマ追究の結果をまとめる段階で、追究が深まる活動として共通の視点を中心に据えたパネルディスカッションを行い交流する。このパネルディスカッションを通して生徒は、全体の中の自己の追究の位置付けを理解し、自分たちの追究の全体像をイメージすることで広がりのある追究を体感することができるであろうと考えた。

このように、問題解決の各段階において追究が深まる活動を取り入れることで、個々の課題意識の活性化が図れるとともに課題に対して深く考えようとする姿勢を生み、そのことが広がりのある学びにつながると考え、本主題を設定した。

II　研究のねらい

主体的に広がりのある学びを行っていく生徒を育てていくために、総合的な学習において、各段階に様々な追究の深まる活動を取り入れることが有効であるかどうかを実践を通して明らかにする。

III　研究の見通し

1　テーマ設定の段階において、グループウェビングを中核に据えた活動を行えば、調査項目の関連性をイメージでき、課題意識が活性化するとともに、意欲をもって追究に取り組めるようになるであろう。

2　テーマ追究の段階において、毎時間の追究活動の終わりに共通の視点に基づく振り返りを行えば、生徒は自己の追究を主体的に掘り下げていくことができるようになるであろう。

3　テーマ追究の結果をまとめる段階において、共通の視点を中心に据えたパネルディスカッションを行えば、自己の追究の位置付けを理解し、自分たちの研究の全体像をイメージでき、広がりのある追究を体感することができるであろう。

IV　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　広がりのある学びとは

広がりのある学びとは、テーマのもつ多面性を大切にした学びと考えた。あるテーマについて追究するときには、そのテーマのもつ様々な側面を意識し、それらの関連性を考えながら追究を行う、さらにそのテーマから派生する細かい課題の背景や将来像、それにかかわる人々の気持ちなどを意識した追究をすることで、そのテーマのもつ意味や問題が見えてくる。つまり、一つのテーマに対して様々な観点から追究を行うことで、テーマ全体の姿を浮き彫りにしていくことが大切である。それらの体験を通して生徒は、追究による学びの広がりを体感し、今後の追究活動の中で自ら広がりのある学びを生み出していこうとする態度が養えるであろうと考えたのである。

(2)　追究が深まる活動とは

テーマのもつ多面性とそれぞれの項目の多様性に気付き、広がりのある学びを生み出すための支援を追究が深まる活動とする。テーマのもつ多面性をイメージするために、グループウェビングを中心とした活動を取り入れた。また、主体的に追究を掘り下げることができるように、共通の視点に基づいた振り返りとパネルディスカッションを行うこととした。具体的には、次のような活動を取り入れることとした。

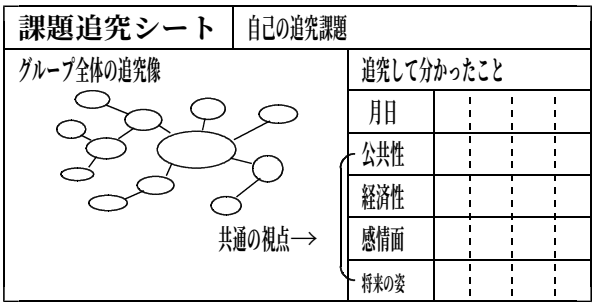
○テーマ設定の段階・グループウェビングでの課題の洗い出し
　　・手分けしてのプレ調査活動
　　・再グループウェビングでの全体像把握
　　・自己の追究課題を決め、道筋を考える
○テーマ追究の段階・共通の視点での振り返り
○テーマ追究の結果をまとめる段階
　　・共通の視点を中心にしたパネルディスカッション

(3)　グループウェビングとは

ここでいうグループとは学習集団全体を指す。学習集団全体でウェビングを行うことで、テーマ全体の姿を明確にする。そして個々の課題について、手分けして聞き取り調査を行うプレ調査活動を通して、一つ一つの課題をイメージし、そのうえで再ウェビングを行う。これにより、テーマのもつ多面性を意識することができると考えた。

(4)　共通の視点に基づいた振り返りとは

追究の段階では次のような課題追究シートを用いて毎時間の追究の振り返りを行う。



この振り返りを通して、次回の追究への見通しをもつとともに、自己の追究の足りない部分や深まった部分を意識できると考えた。また、グループ全体の追究の中での自己の追究の位置付けを明

確にするためにウェビングの結果をはり、そこから派生した個々の課題であることを意識できるようにする。なお、追究の視点は、公共性（その事柄を取り巻く社会的環境）・経済性（その事柄のもつ経済活動としての側面）・感情面（その事柄にかかわる人たちの気持ち）・将来の姿（その事柄の今後の姿）とした。課題のもつ背景を物的側面と経済的側面と人的側面から調べることで、その課題の将来の姿を浮き彫りにすることをできればと考えたのである。この課題追究シートを用いることで、グループウェビングによる全体像とそこから派生した自己の課題を常に意識した追究が行えるとともに、共通の視点で追究を進めることで後のパネルディスカッションにおいても討論が深まると考えた。

2　研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

(1)　授業実践計画

期間　平成17年９月上旬から12月上旬（27時間）	対象　２学年　高齢者福祉班21名
単元名	「みんなが幸福に生活するために、わたしたちにできること」
抽出生徒	A男‥何事にも興味をもち意欲的に活動を始めるが、長続きせず飽きてしまう。テーマ追究の段階で随時共通の視点を大切にしたアドバイスを行うことで意欲の継続を図り、パネルディスカッションでの活躍で達成感を味わえるようにしたい。 B子‥授業への取組がやや受け身で、指示待ちの面が強い。やり始めたことにはコツコツと取り組むことができる。テーマ設定の段階での活動に他の生徒との協力しながら取り組むことで課題意識をより高め、その後の自己の追究活動へつなげ、パネルディスカッションへの積極的な取組を生み出したい。

(2)　検証計画

見通し	検　証　の　観　点	検証の方法
見通し１	テーマ設定の段階において、身の回りの高齢者への聞き取り調査と連携したグループウェビングを行うことは、高齢者福祉問題に対する課題意識を活性化し、追究への意欲を高めることに有効であったか。	学習活動の観察（グループウェビングへの取組） 自己課題設定シートの記入
見通し２	テーマ追究の段階において、共通の追究の視点に基づく振り返りを行うことは、自己の追究を主体的に掘り下げていくことができるために有効であったか。	課題追究シートの記入 学習活動の観察
見通し３	テーマ追究の結果をまとめる段階において、共通の追究の視点を中心に据えたパネルディスカッションを行うことは、自分たちの研究の全体像をイメージし、広がりのある学びを体感することに有効であったか。	学習活動の観察（パネルディスカッションへの取組） 振り返りカード

Ⅴ　研究の展開

1　単元名　「みんなが幸福に生活するために、わたしたちにできること」
－高齢者福祉について－

2　単元の考察

本単元は「福祉」領域の学習として、だれもが幸福に生活できる社会を実現するために、私たちはどう行動していったら良いかの、実践的態度を身に付けることをねらいとしている。テーマを設定する段階では、グループウェビングとプレ調査を行い、しっかりとした課題意識をもって追究に臨めるようにする。テーマを追究する段階では追究の方向性を保ちつつ、自己の追究の深まりを意識できるように、グループ共通の視点を大切にした追究を行う。そしてまとめる段階では共通の視点を中心にしたパネルディスカッションを行い、広がりのある追究を意識できるようにする。

3　目標及び評価規準

①目標

高齢者がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていること、また生き生きと生活してもらうために様々な努力がなされていることを理解し、より一層充実した福祉社会実現のために自分に何ができるかを考える態度や能力を育てる。

②評価規準

・高齢者との交流や体験活動を通して、様々な立場の人について互いの考えや個性を認め、高齢者福祉に対して主体的に追究しようとする。（関心・意欲・態度）

・高齢者の置かれている現実など現代社会の福祉にかかわる現状や問題点を自分のこととしてとらえると共によりよい高齢者福祉の在り方に対して考えることができる。（思考・判断）

・高齢者福祉の現状や問題点について様々な方法で追究し、それを分かりやすくまとめて発表することができる。（技能・表現）

・福祉にかかわる現状や問題点を知り、それらに携わる人々の気持ちや考えを理解する。（知識・理解）

4　指導計画（全27時間予定）

【評価規準】（◎関・意・態　●思・判　□技・表　◆知・理）

過程	時間	学　習　活　動	支援及び指導上の留意点	学習活動における具体の評価規準（評価方法）
		見通し１		
テーマ設定	2	○「高齢者福祉」というテーマでグループ全体でウェビングを行い、高齢者福祉についての意見を出し合い追究の方向性を決める。 ○ウェビングマップからそれぞれの分担を決め、聞き取り調査を行うための準備をする。	○「高齢者福祉問題」について自分なりの考えがもてるよう、自由にフレーズを発想する時間をとる。また、生徒のイメージをふくらませるために身近な高齢者のことを発表するとうに支援を行う。 ○ウェビングマップからテーマをいくつかの領域に分け、分担してお年寄りの抱える問題点や幸福についての聞き取り調査をを行う。	◎高齢者福祉全体についてイメージをもつことができる。（学習シート）
	1	○聞き取り調査の結果を発表し合う。 ○全体で「高齢者にとって幸せとは？」というテーマで再度ウェビングを行う。	○聞き取り調査の結果は印刷し、共有する。 ○前回のウェビングの結果を発展させる形で行うことで、高齢者福祉全体のイメージを作り上げる。	●高齢者の立場を理解し、高齢者福祉問題について課題意識がもてる。（行動観察）
	2	○ウェビングの全体像から自己の追究したい課題を決め、追究の道筋を考える。	○全体ウェビングの結果を全体で再確認し、それぞれの方向性が全体にわたるよう調整する。その後、各自で追究課題を考える。 ○追究課題が決まった人から追究の道筋を考え、教師は随時アドバイスをする。	◎主体的に自己の追究課題を決めることができる。（学習シート）
		見通し２		
テーマ追究	1	○自己の追究課題について、追究の道筋を再確認するとともに追究の方法を検討する。	○自己の追究課題について、共通の視点を中心に追究を進めることを確認する。 ○共通の視点についての理解し、記録ができるように、例を示す。また課題追究シートの記入の仕方についても指導する。	●共通の視点について理解し、追究への見通しをもつことができる。（学習シート）
	9	○課題追究に向けた調査・分析活動を行う。 ○毎時間終了時に課題追究シートに各視点ごとのその日に分かったことを記入する。	○視点を意識した追究が行えるよう随時アドバイスをする。 ○課題追究シートの記入により、追究の様子を把握するとともに、個別指導を行う。	◆課題の調査・分析活動を通して、高齢者福祉の現状を理解するとともに、自らの追究を掘り下げる

				ことができる。（行動観察・課題追究シート）
		見通し３		
ま	1	○自己の追究を整理し、パネルディスカッションのための資料を作る。	○共通の視点に基づいて提案ができるよう、資料の基本形を例示する。	□各視点を意識した資料作りができる。（行動観察）
と	2	○パネルディスカッションを行い、それぞれの考えを聞くとともに、自己の考えを発表し、お互いの追究を深め合う。	○進行の補助を教師が行い、視点を中心に討論が進むよう支援する。また、自己の追究と対比し追究の全体像がイメージできるよう、追究全体図をはり随時確認していく。	●高齢者福祉について自他の考えを比較し、深めることができる。（学習シート）
め	1	○パネルディスカッションでの話し合いやアドバイスをもとに自己の追究の見直しをする。	○パネルディスカッションでのパネラーの意見やアドバイスシートを参考にして自己の追究の補足調査の計画を立てる。アドバイスシートには教師のアドバイスも加えて配布する。	□話合いの結果を自己の追究の改善に役立てることができる。（学習シート）
る	4	○中間発表会に向けての資料作りを行う。 ※校内中間発表会は、学校公開日に各学年の代表の班が発表を行い、高齢者福祉班では班全体で発表を行う。 校内中間発表会		
	4	○追究結果をまとめ、校内外への発信を行う。		

Ⅵ　研究の結果と考察

1　テーマ設定の段階において、身の回りの高齢者への聞き取り調査と連携したグループウェビングを行うことは、高齢者福祉問題に対する課題意識を活性化し、追究への意欲を高めることに有効であったか

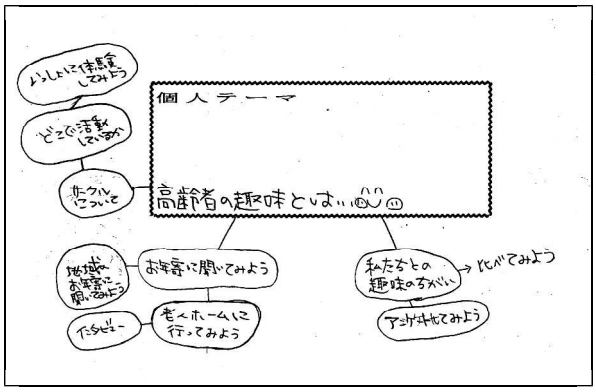
古くからの農村地区が校区の大半である本校は、高齢者との同居世帯が多い。本実践で「高齢者福祉班」を構成した21名の生徒のうち15名が同居世帯であり、基本的に高齢者と触れ合って生活している。しかし、最初の授業での「高齢者にとっての幸せとは？」という発問に対して、あまりイメージがわかず、「よく分からない。」「うちのおばあちゃんは幸せなのかな？」などの意見が多く聞かれた。その後のウェビングのために浮かんだフレーズを書く段階でも、マスコミなどの話題になる事柄（年金問題や介護保険、老人ホーム）がすぐに浮かび、身近な高齢者である自分の祖父母の生活に思いが及ぶ生徒は少なかった。

A男は、祖母と同居し身の回りの様々なことを世話してもらっている。しかし、最初のフレーズを書く段階では「入れ歯・おむつ・痴呆・年金」という言葉がすぐに浮かび高齢者に対してマイナスのイメージをもっていることがうかがえた。ウェビングではA男は、熱心に友達と意見交換しながら積極的に参加した。特に介護について強い関心を示しウェビング中に「うちのばあちゃん最近元気が無くってさー。」とつぶやいた。また、プレ調査活動の分担では積極的に「介護用具」を希望した。プレ調査活動では様々な介護用具があることを祖母から聞いてきて、授業前に得意そうに話していた。また、その中で介護ということではなく高齢者にやさしい電化製品もあることを知り、調べてみたいという意欲をもった。自己の追究課題を「高齢者用の用具」としたA男は意欲的であった。ただ、調べる道筋があまり浮かばず、インターネットで調べればすべて分かるような気持ちでいた。そこで、A男については、テーマ追究の段階において、多様な追究の道筋を考えさせることを支援していくこととした。

また、B子は、最初のフレーズを書く段階で、すぐに自分の祖父母をイメージし「明るい・やさしい・足が悪い・家族が支えになっていそう」と具体的に言葉を書くことができた。しかし、その後はイメージがあまりふくらまず、似たような言

葉は出てくるものの７～８個で止まってしまった。そこで全体でのウェビングとなった。Ｂ子は、ほとんど黙って友達の意見を聞いていたが、隣の生徒とはこまめに情報交換を行っていた。授業後何を話していたか聞くと、お互いの祖父母の様子とウェビングの結果を比較していたとのことであった。また、プレ調査活動の分担では仲の良い友達と共に「高齢者の趣味」を希望し、二人で積極的に話し合い質問項目を決めるという主体的な姿が見られた。プレ調査活動では、Ｂ子は趣味も含めて自分の祖父母が現在幸せに暮らしていることを再確認して満足そうであった。そして、趣味のグループに参加していることを知り、その面で調べてみたいという意欲をもち、個人追究課題を「高齢者の趣味」と決めた。資料１はＢ子が書いた自己課題追究への見通しである。普段は、一人では考えが進まないことが多いが、自分の力ですぐに書き始めた。また、追究への手だて「アンケートをとる」「高齢者サークルを体験してみる」などを考えることもでき、意欲をもつとともに、どうしたら追究できるかを考えることができた。このことから、Ｂ子にとっては、ウェビングの一連の流れが、課題意識の活性化を図り、追究への見通しをもたせることに有効であったと考えられる。

資料１　Ｂ子の個人ウェビング図



全体的には、ウェビングで自分の出した意見が取り上げられることへの満足感が相乗効果としてウェビングを活性化し、熱心な話合いを行うことができた。また、プレ調査活動を行ったことで全員が身近な高齢者とのコミュニケーションをとることとなり、その存在を強く意識することができた。また、様々な側面で追究すべき多くの課題があることに気付き、そのことが再ウェビングに対する意欲につながった。結果的に、資料２ようなウェビング図が完成した。

資料２　全体ウェビング図

２　テーマ追究の段階において、共通の追究の視点に基づく振り返りを行うことは、自己の追究を主体的に掘り下げていくことができるために有効であったか

テーマ追究の段階では、21名が17テーマに分かれ追究活動を進めた。

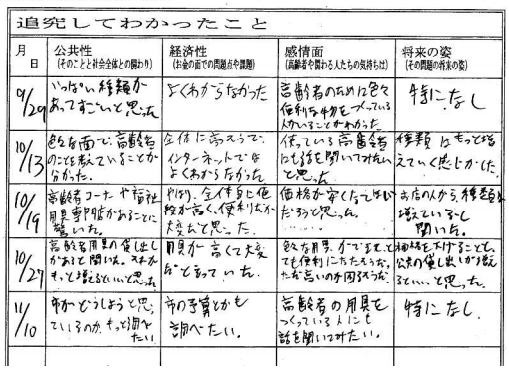
Ａ男は、「高齢者のための用具」を自己追究課題とし、インターネットで調べることから追究を始めた。インターネットの福祉関連のページで介護用の様々な器具があることが分かり「すごいすごい！いろいろあるなー」と喜んでいた。それぞれの写真をフロッピーに保存し、用途などをメモし満足していた。ところが課題追究シートを書く場面になって、経済性と将来性が書けず悩んでいた。価格面での調査も進めるようアドバイスした。３時間目もインターネットで調べ始めた。すぐに前回の経済性が気になったようで、価格を調べようとしていた。いろいろな検索ワードを入れ苦労していたが、学校のインターネットは販売関係のページに入るのにフィルターがカットしてしまうため、結局あまり調べられなかった。また、高齢者用の電化製品についてもほとんど分からない状態であった。そこで、「ほかに調べる方法はないだろうか？」と助言すると、Ａ男は売っているお店に行くことを思いついた。そして電気店に行くことはすぐに浮かんだが、介護用具はどこで売っているのか分からないでいた。そこで、友達に相談するようにアドバイスすると、自宅介護について調べている友達から市内に高齢者用具のお店があるらしいことを聞き、次の時間に一緒にそこに行くことになった。これらのことから、課題追究シートを用いて視点ごとに分かったことを整理するこ

とで、自己の追究の足りない部分が明確になり、自己の追究の見通しをもつことができたと考えられる。また、様々な角度から追究を進めることで、追究に行き詰まったときに補完し合うこともでき、追究の深まりを生むことができたといえる。

４・５時間目は、高齢者用具の店と電気店に調査活動に出かけた。見てくることとともにお店の人に話を聞いてくるようアドバイスした。帰ってくるとたくさんのパンフレットを持ち、とても充実した顔をしていた。電気店に高齢者コーナーが設置されていたことや高齢者用電話のことなどを友達に話していた。また、価格も調べることができた。全体的に価格が高いことに驚くとともに、自分の祖母の収入を考え、高齢者の生活の大変さに気付くことができた。そして、そのことから高齢者の気持ちを確かめたいと考えたようで、次の時間には高齢者に話を聞くことにした。

６・７時間目は、自分の祖母の紹介で近所の高齢者夫婦の家にインタビューに出かけた。高齢者の気持ちを直接聞くことができた。また、高齢者用具の貸し出しがあることが分かり、公共性とのかかわりや経済面での援助にも目を向けることができた。課題追究シートの書き込みも充実してきて、４つの視点から追究を深めることに慣れてきたことを感じる。A男は、もともと追究への意欲は高く行動力もあるので、それに課題追究シートによる振り返りが加わることで、自己の追究の足りない部分に気付くことができ、どんどん追究を深めていくことができた。

資料３　A男の課題追究シート



追究してわかったこと

月日	公共性（そのことと社会全体との関わり）	経済性（お金の面での問題点や課題）	感情面（高齢者や関わる人たちの気持ちなど）	将来の姿（その問題の将来の姿）
9/29	いっぱい情報があってすごいと思った	よくわからなかった	高齢者のためにいろいろ便利なものをつくっている人がいることがわかった	特になし
10/13	色々な面で高齢者のことを考えていることがわかった。	全体に高くて、インターネットでもよくわからなかった	使っている高齢者にも話を聞いてみたいと思った	将来はもっと考えていく感じがした
10/19	高齢者コーナーや福祉用具専門店があることに驚いた。	やはり、全体的に価格が高く、便利さが大変だと思った。	価格が安くなってほしいだろうと思った。……	お店の人から、将来を考え始めていると聞いた。
10/27	高齢者用具の貸し出しがあって聞いた。それがもっと増えればいいと思った	用具が高くて大変だと言っていた。	色々な用具がつくられてきて便利になったなと思いの方向ずつた。	補給を付けることで、公共の貸し出しが増えればいい、と思った。
11/10	年がどうしようと思っているのかもっと調べたい	年の予算とかも調べたい。	高齢者の用具をつくっている人にも話を聞いてみたい。	特になし。

全体的にも、A男のようにスムーズではないものの、それぞれ課題追究シートで振り返ることで、埋まらない部分を次回の追究で調べようとすることができ、課題追究シートを用いて共通の視点で振り返りを行うことは有効であったと考える。

B子は、「高齢者の趣味」について友達と二人で調べることになった。高齢者サークルを調べることから始めた。インターネットや本で調べようとし始めたが、すぐに行き詰まってしまった。市役所に電話して相談することをアドバイスすると、積極的に電話して公民館で数多く行われていることを聞き、そちらにも電話して見学に行くことを決めた。普段、おとなしいB子がとても行動的であり、課題意識の高まりを見取ることができた。また、高齢者の趣味についてのアンケートは、高齢者の生きがいグループが作っているアンケートに項目を入れてもらうことにした。３時間目はサークルとの都合が合わず、４・５時間目に見学及び体験に出かけた。その際にインタビューもしてくるようにアドバイスした。帰ってくるとデジカメで撮った写真を見せ、日本舞踊と社交ダンスのサークルと交流し体験してきたと報告した。しかし、交流にとどまってしまったようで、楽しく充実した活動をしていたことは分かったが、経済性と将来性について調べることができなかったと課題追究シートに記入しながら気付いたようである。６・７時間目はアンケートのまとめに取り組み、経済性と将来性については後半の追究で深めていくことにした。

全体としては個々がそれぞれの追究を行っているため、現地調査や見学の場面で臨機応変な活動が行えるかどうかが重要になることが分かった。後半の追究活動では、そのことをより意識し、見通しをもった支援をしていく必要があると考えた。

３　テーマ追究の結果をまとめる段階において、共通の追究の視点を中心に据えたパネルディスカッションを行うことは、自他の追究に対する理解を深め、自己の追究を振り返り、広がりのある学びを体感することに有効であったか

テーマ追究をまとめる段階にパネルディスカッションを行うために、まず共通の視点を大切にした追究の中間まとめを行った。個々の追究の内容にもよるが基本的にはプレゼンテーションソフトを用いた。

A男は、介護関係について調べたグループでパネルディスカッションに参加した。自分の発表では、考察を次のようにまとめ、しっかりと発表することができた。

資料4　A男の考察の内容

・公共性
　高齢者のために使いやすく、よりシンプルに分かりやすくなった物が普及している。そして、それを専門に売っている店がある。また、市などが貸し出す制度もある。
・経済性
　価格は安定しているが、全体に高価であり、一般の高齢者では買うのが大変なほどの物もある。基本的には自費で買わなければならないが、補助金の制度もあるそうである。
・感情面
　便利になってうれしいが、自己負担で買わなければならないので、とにかくお金がかかるそうだ。
・将来性
　昔と比べるととにかく種類も数も圧倒的に増えて便利になったが、これからもっと増えそうだと感じた。そして、これから高齢者社会になればもっと価格が安くなっていくだろうと思う。市の援助も増えていってほしいと思う。

介護保険について調べているパネラーから、介護保険との関連を指摘され、まだ調べてないので今後調べていきたいと答えた。また、自宅介護について調べた人が続いて発表し、A男は自分と関連しているため興味深そうに聞き、自分の調査では出てこなかった用具について価格を質問した。そのほかの発表についても、主として経済性からの質問や意見が多かったが、活発にパネルディスカッションに参加することができた。自己評価カードには、「分かりやすくまとめてあると言われてうれしかった。介護保険などほかのテーマとも関連してることが分かった。今後は使う人だけでなく作っている人の気持ちも調べてみたい。また、これからの姿をもっと明らかにしていきたいと思った。」と書き、自己の追究について十分に振り返られたと考えられる。

B子は、友達と協力してまとめに取り組んだが経済性と将来性についてあまり深められず、中部公民館での高齢者サークルの様子を発表することにとどまってしまった。パネルディスカッションでは、高齢者の生きがいに対して、自分で調査に行ったサークルの様子を参考にして意見が言えた。自己評価カードには、「もう一度高齢者サークルに行ってインタビューしてきたい。」と書いた。B子なりに自己の追究の足りない部分に気付き、それを埋めたいと思う気持ちがもてたことは、自己の追究に対する振り返りに有効であったといえよう。

最初はパネルディスカッションに慣れず、形式張ったものになってしまったが、少しずつ慣れるにしたがって、パネラーの意見も多くなり、活発なディスカッションになった。また、パネラーと発表者以外はアドバイスシートに記入し、それぞれの発表者に渡すことで、各自の追究を振り返ることにつなげた。これらの手だてにより、それぞれやや差はあるものの、自己の追究を振り返るとともに追究全体の姿をイメージすることができたと考える。

写真1　パネルディスカッションの様子

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　追究の各段階でウェビングや視点を決めた振り返り・パネルディスカッションという追究の深まる活動を取り入れたことにより、生徒はテーマからの発想を広げ、自己の追究の足りない部分に自分から気付いて深めながら追究活動を進めることができた。また、共通の視点に基づいてパネルディスカッションを行って交流をしたことで、全員が一つのテーマについて追究していることをイメージし、追究の広がりを体感することができたと考える。

○　個人でテーマを設定しそれぞれが追究を進めたため、全員に場面に応じて適切な支援を行うことがとても難しかった。今後は、一人一人の追究活動が深まるための支援の工夫や、関連する追究課題の者同士のよりよい連携の仕方などについても研究を深めていきたい。

〈参考文献〉

・硯川　眞旬　編　『老人福祉論』　金芳堂（２００１）